

健やかに生き、安らかな最期を

Living Will

2019年
4月発行

No. 173

リビング・ウイル

評論家

樋口恵子さん

最期になると
心も揺れ考えも
変わるものです

○2018年「ご遺族アンケート」の結果

○松浦喜房・受容協力医の地域活動

○連載「四季の歌」花



一般財団法人
日本尊厳死協会

【インタビュー】

評論家・「高齢社会をよくする女性の会」理事長

樋口恵子さん

名刺の裏に 「最期のあり方」を 書いています

インタビュー！ 構成／会報編集・郡司武 写真／白谷達也



ネコのダンちゃん（13才）を脇にインタビューに答える樋口さん



名刺の裏に「私、回復不可能、意識不明の場合、苦痛除去以外の延命治療は辞退致します」。表に「娘 樋口睦にもよく申つけてあります」とある。2000年頃から始め、名刺が汚れたりすると更新する。「名刺はもう4、5枚目になりますかね」

—それは何ですか？名刺の裏に何か書いてありますね。

樋口 ああ、これね。私は健康保険証と一緒に、名刺の裏に、このように書いて（と言って名刺の裏を見せる）いつも携帯しているんです（写真参照）。最期についての最低限のことは書いてありますから、希望は叶えられるんじゃないかと思っています。これが私の、最期のあり方の「希望表明書」です。あとで詳しくお話ししますね。

—はい、そうしましょう。

樋口さんは、これまで身近な人をずいぶん亡くしてこれたと、書かれたり話されたりしています。お父さまは考古学者（柴田常恵^{しばたじょうえ}）でした。亡くなられたのは、樋口さん、おいくつの時ですか。

樋口 私は、父が55歳の老境の頃に生まれた子でして。私が大学の4年生だった22歳の時に77歳で亡くなりました。昭和29年、ちょうど就活の真っ最中だった時で、学生新聞サークルで忙しく動き回っていた頃でした。朝出かけた時は特に何でもなくて、夜遅く帰ると、

練馬の豊島園近くにあった家の2階に、煌々^{こうこう}と電気が点いていてね。「何事かが起こった」と感じました。玄関を入ったら母（継母）が大声で「お父さまが亡くなっちゃったのよおーっ」と。

—死因は何だったんですか。

樋口 脳血栓から心不全になったんですね。もともと少し心臓が弱っていましたので、一気に逝ってしまいました。すぐに医師を呼んだようですが、もう冷たくなりかけていたそうです。大往生と言っているかもしれませんね。

「私は号泣しながら
一部始終をみました」

—実のお母さまは、もっと早く亡くされてますね。

樋口 私が小学2年の時でした。胃がんで入院していて、最期は離れの部屋で在宅療養でした。ある夜、起こされて「お母さんが亡くなるから、お別れをなさい」と。ほんとに静かに眠っていて、苦しんだ様子もなかったですね。呼吸が静かになり、肩でしていた息が、

すーっと消えました。52歳でした。よく覚えています。

——8歳での生き別れですか。それは、つらかったですね。

樋口 父はその頃、慶應大学で教えていて、お弟子さんもいっぱいいて、その人たちに仕切ってもらい、母の葬儀は自宅でした。庭にテントを張って、座敷を「葬儀場」にしてという、戦前の東京の中流家庭の送り方でしたね。昭和15年ごろで、戦争が激しくなる直前のつかの間の平和な時でした。母を看取ったあとの死者を送り出す流れ、といえますか、それを私は号泣しながら、一部始終をみていました。死んだ人に対する礼儀と言いますか弔いの大切さ、を強く感じましたね。

その時、兄は5年生で、早熟で有名な文学少年でした。斎藤茂吉の「死にたもう母」をもじって歌を詠んだりし、机に突っ伏して号泣していました。兄妹2人して号泣していたわけです。

——その時代と家庭の情景が、あざやかに浮かんできますね。

樋口 兄は早熟だったこともあり、父に可愛がられていました。その兄も、東京大空襲の前日の1945年3月9日、16歳で亡くなりました。勤労動員で風邪をひいて、それが脳へいって、急性結核性脳膜炎でした。私は長野の集団疎開先から葬儀に駆けつけましたけど、当然ですが、もうすでに冷たくなっていましたね。

——はあー、そうでしたか。

樋口 だから私の成育歴は、人の死に満ち溢れていたわけです。

「私の人生の悲しみの原点といつてもいい」

——お母さん、お兄さんを戦前・戦中に亡くされ、戦後10年経たないうちにお父さんも亡くされたわけですね。そのあと、結婚されたご主人も？

樋口 そうなんです。結婚して姓が柴田から樋口に変わり、子どもも一人生まれていました。結婚して6年半くらい経った昭和37年5月、夫は35歳でした。これは私の人生の悲しみの原点といつてもいい

いと思いますね。兄についてはまだ若かったし「可哀相だなあ」と思いましたけど、夫の場合は、まさに「人間存在の死」というような重い受け止め方でした。

——どんな病気だったんですか。

樋口 病名は若年性糖尿病性昏睡ですね。「具合が悪い」と言っただけで、それから数日して逝ってしまいました。重度の免疫不全だったんでしょうか。まあ、高度経済成長の働き過ぎだったと思いますよ。

——どんな方だったんですか。

樋口 私より5つ上で、東大の工学部を出たキヤノンの技術者でした。見合い結婚です。結婚して子どもを生み、育てていたさ中の突然の死でした。夫が亡くなって、私は拾ってもらう形でキヤノンに勤め始めたんです。

——何年くらい勤めたんですか。

樋口 7、8年勤めていましたかね。勤めていた時から、働く女性の生き方や福祉・教育などの評論活動をしていて、それがだんだん忙しくなってきたので、辞めて評

論の仕事一本になったわけですね。——なるほど、そういう流れでしたか。

樋口 もうすでに、少子化と長寿化の問題が見えていました。女性化の問題が見えていました。女性は、生む子どもの数は少ないし子育てのあとでも長生きする——それは、特に生む側の女性の人生を劇的に変えていくことになります。そういう意味では私の予感とは完全に当たって、評論活動が活発になっていきました。

——人口構造の劇的な変化の中で、男女の生き方も変わらざるを得なくなっていくというわけですね。

樋口 そういうことです。「個人も企業も変わらざるを得ないんです」と、ずいぶん抵抗も受けながら言っていました。

——今、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」の理事長をされています。いつ立ち上げたんですか。

樋口 1982年です。

——37年前になりますね。ずいぶん早くから来たるべき時代を予想し、活動を始めたんですね。

樋口 いや、でもこの時すでに「ふたりっ子世代」が実現してしま

たし、遠からず少子高齢化はくると言われていました。人口構造の変化をみれば、世の中の変化はわかるんですよ。私たちの世代は、都会でも平均4、5人のきょうだいがいました。そうすると、一家

の長男には実家から解放された「嫁」という人がきて、その嫁が、嫁いだ先の親たちをみるというこ

とで介護も含めて社会が成り立っていたわけです。ところが私たちのあとの世代は、子どもを2人しか生んでいませんから、実家の親を捨てて嫁ぎ先の親だけを看取れ

るという人口構成ではなくなったわけです。それが介護保険を生んだ最も大きな理由ですよ。

——立ち上げには、ほかにどんな方が関わっていますか。

樋口 秋山ちえ子さんとか吉沢久子さんとか。あとで経済企画庁長官もしました高原須美子さんもありました。賛同者は50人ほどでした。

——初代理事長も樋口さんですか。

樋口 そうです。50歳の時から、ずっと。会員は今、700人、800人でしょうか。この会の特徴は、全国47の都道府県にグループのない県は一つもないということです。調査をしたりする時に動員力がある会なんです。地域の核になる人がいるということです。

「弱ってしまった長い時間も自分の人生」

——大事な調査ですね。それでは話は変わりますが、冒頭に出ました「過剰な延命治療を辞退する」との宣言、これはいつからされているんですか。

樋口 私の人生で一番つらく悲しかったのは、先ほどもいきました最初の夫が亡くなった、私がやっと30歳になったときでした。子ども一人抱えて無我夢中で働いて生きてきました。それから十数年経ち、時間が流れると、悲しみも次第に薄れてきたりするもので、それで40歳代になって、3歳上の新聞記者出身の新井直之と事実婚の関係になり、30年一緒に暮らし



「だから私の成育歴は人の死に満ち溢れていたわけです」

ひぐち・けいこ

1932年、東京生まれ。評論家、東京家政大学名誉教授、NPO法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長。東京大学文学部美学美術史学科を卒業後、時事通信社、学習研究社、キヤノン勤務ののち、評論家として女性問題、福祉、教育などの分野で評論活動を行う。1989年度の日本女性放送者懇談会賞を受賞。2003年東京都知事選挙に立候補したが落選。厚労省の審議会委員などを多く務める。

した。そしてその死をきっかけに「延命治療を辞退する」とか「尊厳死」とかの問題に深く関心を持つようになったわけです。

——そうですか。新井さんが亡くなったのは何年ですか。どんな最期でしたか？

樋口 1999年、大動脈瘤破裂でした。鼻腔から栄養を摂り、管から排泄する状態が3年3カ月続き、右手の親指一本しか動かさない寝たきり状態で亡くなりました。以前にも小さな破裂をしたことがあり、その時は立ち直って大学で教えることができました。彼は元気なときから、言いすぎるくらい言ってしまったのは、「オレはプロダクティブでなくなったら生きてる気はしねえなあ」でした。

——「……しねえなあ」が実にリアルですね。

樋口 彼の得意のセリフでしたね。

彼が大動脈瘤破裂で寝たきりになり、声は気管切開ですからほとんど出ません。私もその頃、乳がん

になったりしましてね。先ほどお見せしました名刺の裏に「私の最期のあり方」を書くようになったんです。最大のきっかけは彼の最期の状態ですね。

——新井さんは、寝たきり状態になり、どんな思いだったんでしょうね。

樋口 そんなんです。「プロダクティブでなくなったら生きてる気はしねえなあ」と、彼は果たして最期まで思い続けていたのか、自分が寝たきりになって、その強い思いは変わってしまったのか。そこは、私も問いたださないことにしました。学生や家族が来ると結構嬉しそうでしたし。人は弱ってしまっただけ長い時間、まぎれもなく自分の人生ですから。

人は元気でいた時と病んだ時で考えが変わるものですよ

2018年「ご遺族アンケート」結果

93%の方がLWは受け入れられた

揺らぐ家族の想いに安心と平穏が……

「『尊厳死協会のカードは自分の美学だ』という夫でした」
——そんな妻の声もありました。
「ご遺族アンケート」に寄せられた様々な声を紹介します。

父が会員であることで、
ただ単に延命しないということだけでなく、
自信を持って最期に向き合う
ことができました

長女

ただ口約束だけでなく、
協会の会員であるという証明は、
とても堂々たるもの
だと思っています

長女



——なるほど。こういう状態で生きているのでもいいのか、と思い始めたのかもしれないね。

樋口 そうそう、今になって、そうじゃなからうかと思ったりもしますね。人は、元気でいた時と病んで臥せってしまった時と、その時その時で考えが変わるものです。あの世に行ったら、聞き直してみましよう。

——今日は、いろいろ踏み込んだお話を、ありがとうございました。



インタビュを終えて

「私の成育歴は人の死に満ち溢れていた」と人生を辿り返す樋口さんの様々な言葉は、深く考えを促すものでした。プロダクティブでなくなったら生きていく意味がない、と繰り返し話す夫のリビングウィルは、どこまで強固か？ 人の考えは変わる、心も揺れる。その真意をどう探るのか、を問う言葉でした。

会報編集部・郡司武

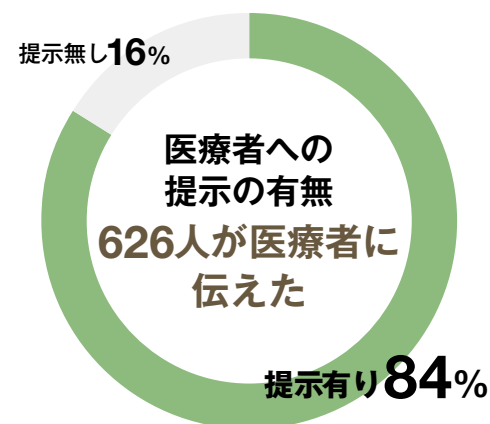
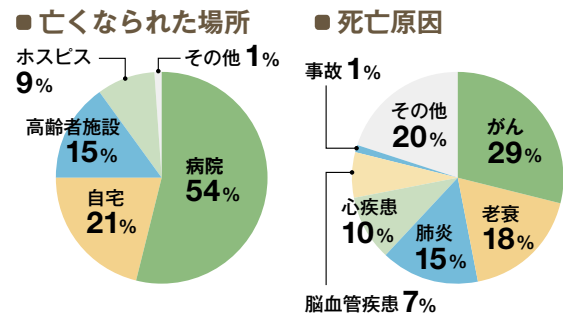
●夫（75歳）は家での療養を決め、在宅診療の医師にLWと「私の希望表明書」を渡してしっかり話し合いをしました。医師にとっては初めて見る書面だったそうですが、きちんと書面で確認したことで前向きに対応することができた、とおっしゃっていました。医療者とケアの方々は、本人の「希望表明書」に沿って温かく対応して下さいました。（東京都）

●妻（82歳）の希望通りの最期だったことに、夫として、家族として、安堵の気持ちで妻の死を受け入れていましたが、日が経つにつれ、別離の悲しみや空虚感とともに、もう少し早く気がついて対応していたら等、疑念や後悔が浮上してきました。本人も家族も明確に尊厳死を希望し、意思表示をしていたにもかかわらず、現実とな

ると心が揺れ、難しいものだと反省した次第です。尊厳死宣言を明確に表しておくことは、残された家族の心の迷いを収め、和らげるうえで、大きな支えになると実感しました。（茨城県）

●夫（82歳）の最期は、身内が全員、夫のLWを読んでいましたので、誰も延命措置を言い出さず自然な大往生ができました。しかしある男性から「私は協会には絶対入らない。最高の医療と最大の看護を望むからだ。加入しているなんて言ったら、どちらもやってもええないだらうからな」と言われました。十人十色だと、しみじみ思いました。（栃木県）

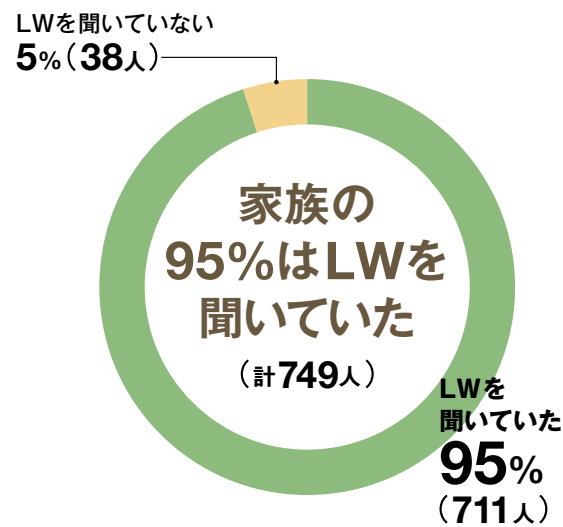
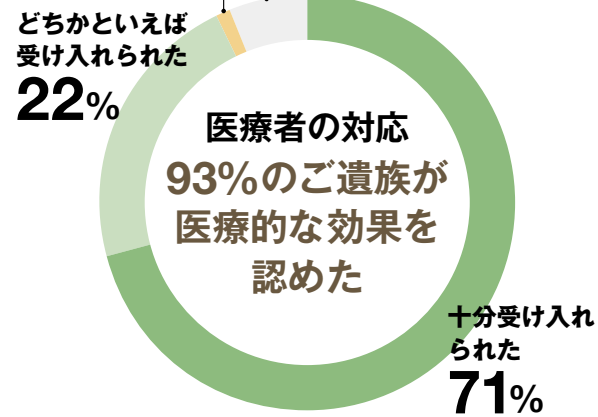




どちらかといえば受け入れられなかった
全く受け入れられなかった

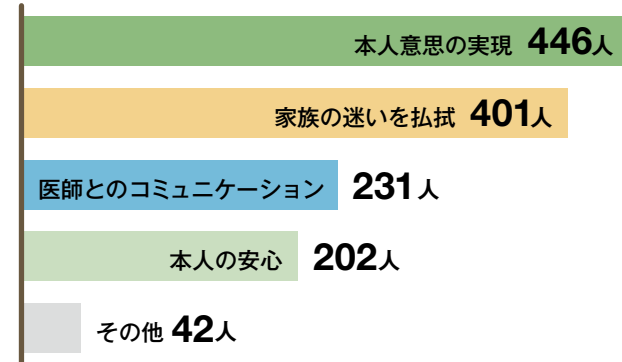
1%

分からない6%

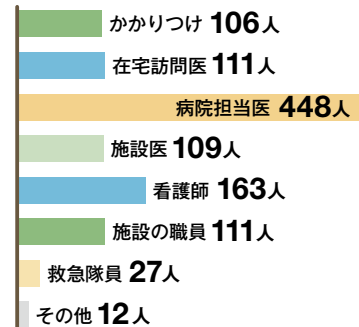


アンケートにご協力くださり、ありがとうございました。

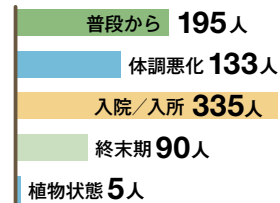
■ LWの意味 (複数回答)



■ 提示先 (複数回答)



■ 提示時期 (複数回答)



■ 提示方法 (複数回答)



協会では、亡くなられた会員のご遺族に協力していただき、リビング・ウイル (LW) が役立ったかどうかをアンケート調査しています。2018年は749人から回答をいただきました。

626人 (84%) がLWを医療者に伝えていて、「LWは受け入れられましたか」との質問には、「十分受け入れられたと思う」が71%、「どちらかといえば受け入れられたと思う」は22%で、合わせて93%のご遺族がLWの効果を

認めています。

一昨年からスタートした「LWはご家族にとってどういう意味を持ったか」を伺うアンケートは以下です。複数回答で一番多かったのは「本人の意思を実現出来た。(446人)」、次に「医療方針を決定するに当たり、家族にとって迷いがなくなった。(401人)」、さらに「医師とのコミュニケーションに役立った(231人)」、「LWを持っていることで本人が安心して暮らせた(202人)」でした。

リビング・ウイルが果たした役割は

このカード(尊厳死協会会員証)は
自分の美学だ、
という夫でした

妻



リビング・ウイルの趣旨に従った
医師の誠意ある対応に、
家族として感謝を
申し上げる以外の
言葉はありません

夫



開業医であった夫にとっても、
長い間心の拠り所として
いました

妻

● 眠るように逝った夫 (93歳) が亡くなる15日前に書いた手紙に、「波乱万丈の生き方をし、いろいろな苦勞もなんとか乗り越えここまでこれ、ほんとうに幸せです。『終わり良ければすべてよし』といます。皆様有難うございました。」とありました。(東京都)

● 医師から今後の治療の説明を受けた際、私ども夫婦は尊厳死協会に入っていますと告げましたら、医師は静かにうなずかれました。夫 (83歳) は日頃から「俺はボツクリ逝く」と言うのが口癖で、その都度たしなめていましたが、「俺の言ったとおりだろう!」という声が聞こえてくるようです。(茨城県)

● 夫 (81歳) は薬剤師という職業柄、機会があればリビング・ウイルの話をし、興味を持った方にはパンフレットを取り寄せ、講演があれば声かけし、陰ながらLWの普及啓発に尽力していました。「ピンピンコロリ」が理想だった夫は、発病から1日と3時間で帰らぬ人となりました。今はさすがにと褒めてあげたいです。(沖縄県)

● 急に発熱した夫 (87歳) が治療を受けていた病院の掲示板に、「日本尊厳死協会に入会していて、過度な延命治療を考えていない方は申し出てください」という貼紙が掲示されていました。本人も妻の私も望んでいた通りの対応で、嬉しく思いました。(愛知県)

● 本人 (56歳) の意思の強さを感じています。乳がんは早期発見出来れば治せたと思いますが、本人が病気を受け入れ、痛みを我慢し、終末期になってやっと家族に伝えた状況です。LW、葬儀、すべて本人の望みに従いました。やはり少しでも長く生きていてほしかった。素直な気持ちです。(神奈川県)

● 医療者や施設、そして一緒に暮らす家族の皆が義母 (88歳) の意思を理解していました。しかし離れて暮らしている子どもが「親にはずっと生きていてほしい」と主張した結果、延命処置を施されました。親に生きていてほしいとは誰でも思うことですが、あの場面で「苦しませるのでやめて下さい」とは、嫁の立場では言えませんでした。(富山県)

LW受容協力医師制度の展望

ルポ——「最期はどうありたいか。どう生きていきたいか」を

生まれ育った鳥取の地でともに考え、寄り添う松浦喜房医師の活動
昨秋に受容協力医師になったばかりの松浦医師は、地域ですでに終末期医療の連携推進に取り組んでいた。『終活支援ノート』を作成した足立誠司医師らの思いとともにルポする。



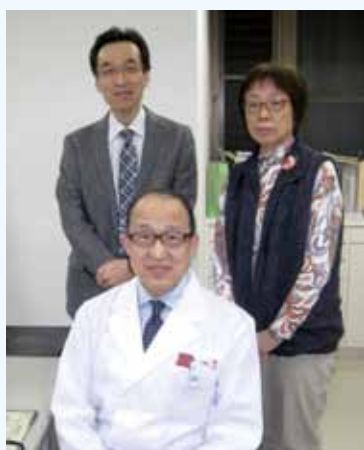
鳥取駅から5分ほどにある栄町クリニック。上階は自宅

「もしもの時は、わたしの心づもり」というタイトルの『終活支援ノート』がある。発行は鳥取市の長寿社会課。この20ページほどの小冊子を編集したのは鳥取市立病院の足立誠司医師（48）や在宅医療介護連携推進室の廣山恵さん（看護師・社会福祉士）たちだ。足立医師はいう。

「この冊子、みてください。2ページにまたがる『わたしの思いや考え』が3回出てくるんです。まったく同じ内容で。当然、年月日の記入欄もあります」

最期はどこで、どんな治療が望みか、食べられなくなった時どう

してほしいか？ あなたの代理として意思決定してくれる人は？などを記入しておくページだ。1回、2回とめぐってみる。同じ内容・文言が続く。意思表示が1回だけだという方向にあるのか、真意がわからない、人の思いは常



松浦医師の後ろに立つ足立医師と廣山さん

に変化し揺れ続けるもの、という認識を前提に、こうした編集にしたという。

「病院に運ばれてきた時に話がないような状態でも、過去の意思が日付つきで何回か書いてあると、繋げて読めば『ああ、そういう思いなんだ』とわかりますよね。ずいぶん昔に書いたものだと『考え、変わってないの？』ってなりますから」（足立医師）

書いたら終わりではなく、見直して書き直してもらう。医師は、どういう方向に意思が変化してきているのかを知り、「真のリビングウイル」に迫ることができる。

ちなみに尊厳死協会でもリビング・ウイルと併せて「私の希望表明書」を用意し、何度でも書き直してもらうことで、会員の揺れる心に対応している。

DMの勧誘に応じて受容協力医師に

昨年の秋に受容協力医師に登録した鳥取県東部医師会会長の松浦喜房医師（62）も、足立医師らとともに中心になって、この『終活支援ノート』の作成や在宅医療介護連携推進室の立ち上げに関わった。

推進室ができたのは4年前の平成27年。事務所は東部医師会館の

4階にあり、メンバーは廣山さん、市職員2人を含めて4人。カバーするエリアには、鳥取市周辺の町のほかに県境を越えた兵庫県の新温泉町も入る。救急車を利用する頻度や、これまで形成されてきた文化圏・生活圏を勘案したという。

この圏内のどの医療施設に行ってもケアが引き継がれるようになってい。住民は、介護施設などいろいろな施設を転々とし、それらに依存しながら「最後」を生きていく。今や、一病院だけで完結する時代ではない。医療や介護だけ

にかぎらない「生活全般を基盤とした連携」が求められる時代だ。「この地域は三方が山に囲まれて、昔からまとまりがあるんです。医師会もこの地域で一つですから、いろいろとやりやすい。かかりつけ医の存在も残っています」と松浦医師。

ここ鳥取で生まれ育った松浦医師は、防衛医大に進んだ。卒業後、アメリカの陸軍病院などへの留学も含め、9年間の在職義務年限を超える11年半を防衛省関連に勤務し、さらに2年間、制服を着て自



「鳥取は過疎化して夫婦共働きが多いため、家庭に介護力がなくなり、施設が多いんです」と話す松浦医師

「まず」一緒に考えることから始まると思う

受容協力医師の新規登録者は、この会報に毎号、名簿が掲載される。このところ圧倒的に多いのが中国地方支部の登録者だ。正木文治支部長が「尊厳死協会の会員を増やすには、何かあれば頼れる受容協力医師の存在が最優先。まず受容協力医師を増やさなければ」ということで、ダイレクトメールで中国地方の各医師会などに勧誘をかけ、それに応じる形で松浦医師が登録した。「受容協力医師認定証」が診察室の壁に掲げられていた。

「医師の仕事は、来られた患者さんに最善の医療をし、患者さんの思いをきちんと受け止めていくということ。まあ、当たり前のことを当たり前にしていけばいいのかな、そんな気持ちで受容協力医師に

なったわけですから」

連携推進室の活動は活発だ。廣山さんたちと年に60回ほどの啓発活動を行なっている。松浦医師は、こうした講演会や学習会などで、折に触れて終末期医療について意見を交わし合う。

「施設によっては、自分たちの施設で死なれては困るというようなところもまだあるんです。介護士が慣れていないとか、誰を呼んだらいいのかわからないとかの理由なんです。そんな時は、『亡くなるというのは生きていることの延長にあるわけで、何ら不自然なことでも不名誉なことでもないんですよ』とお話してるんです」

受容協力医師になってみての尊厳死協会への思いを聞いた。「私たちの活動と尊厳死協会の普及・啓発活動は重なり合うものですよ。どちらも、より多くの人に『最期はどうありたいか』という意思をもってもらうための活動でしょ。それにはまず患者さんと一緒に考えること。そこから始まると思っています」

LWのひろば

「四季の歌」を口ずさみ

野崎田鶴子 85歳 愛知県

よく歌を口ずさむ明るい母でした。今も幻のように母の歌声を耳にします。13年前に97歳で逝くまで、文部省唱歌は2人でよく合唱しました。声の美しい笑顔の絶えない母で、その涼やかな歌声と表情が目に浮かびます。最期は幸い2週間の入院で、安らかに永遠の眠りにつきました。

今、独居老人さんながらの私は、会話もなく、強いて歌を口ずさもうとも思いませんでした。好きな讃美歌も、声を出すことに疲れを覚えてか、まったく歌わなくなっていました。

た。しかし、このところ、会報「リビング・ウィル」を手にして、懐かしく「四季の歌」を口ずさんでいます。声を出すことも運動の一つ、誤嚥の予防にもなるかなと思いつつ、会報に載った歌を歌っています。

明日のことは約されぬ身。最期のあり方、終の棲家など……不安もありますが、穏やかな最期を迎えたいと念じながらの日々の暮らしです。

安らかな旅立ちを見送り

三好妻子 84歳 北海道

去年の秋、連れ合いが旅立ちました。86歳でした。夏の暑さが応えた

のか、十年來の持病による体力の衰えが急に著しくなり、夜半に呼吸困難に陥り病院に運ばれました。尊厳死協会の会員であることは、主治医に提示してありました。医師から診察の結果についての説明が私と娘にあり、苦しみを取る方法（酸素マスクと痛み止めの点滴）を始めました。入院して6日目、安らかに最期の時を迎えました。死亡診断書は「自然死」でした。

私たちは夫の定年退職後、自宅を売り、一人娘の住まいの近くの、病院が作ったサービス付き高齢者向け住宅に入居しました。家財も4分の程度にして身軽になり、白菊会（献体）と尊厳死協会に二人で入会しました。毎年正月には、二つの会について話し合っていました。①最期の時は延命治療をしない、②痛みだけは取ってもらおう、この2点を確認し合っていました。遺言に「葬儀戒名墓無用」とありましたので、そのようにしました。親しい人には、以前から尊厳死協会のことなどは伝えてありましたので、受け入れてくれました。入会していて本当に良かったと思いました。

娘夫婦の手を借りて、書類作りや

身辺の整理も終わりました。この春から私の第3の人生が始まります。のんびりと穏やかな日々を送りたいと思っています。

一人暮らしの日々

山田治男 94歳 千葉県

最愛の伴侶が他界して、すでに十三回忌を迎えます。この心と体の空白を埋めるために、霊場をはじめ四国八十八か所、四国別格二十霊場、百観音巡礼を満願しました。そして現在も毎日、写経を続けています。さらに身辺整理として遺言公正証書を作成、日本尊厳死協会にも入会しました。幸いにも近所に娘夫婦が住んでおりますので、常に見守ってもらい、夕食はともにしていますので、健康は維持され、介護保険のお世話にもならず暮らしております。

私の一日は、94歳になりますので体調に配慮したものです。起床は6時。すぐに写経をして6時半に朝食（主にパン）。7時に交通安全活動（登校見守り）。8時半から新聞、テレビ。10時、自転車外出。12時に昼食。14時、昼寝。16時、テレビ（相撲があれば相撲中継など）。18時、娘宅

3回は東京・新宿にある平和祈念展示資料館での語り部として、シベリア体験と平和の大切さを講演しています。地元の小・中・高でも要請を受け、日本人としての誇りを伝える講演をしています。これからも体力、気力の続くかぎり活動してゆくつもりです。

額に入れて玄関に

匿名希望 81歳 女性

29歳で離婚し、両親と3人で暮らしていましたが、51歳の時に父が亡くなり、60歳の時に母が亡くなりました。私一人きりになってしまいました。母が亡くなったすぐに、日本尊厳死協会に入会しました。鼻や口からなど、チューブに巻かれての最期のあり方は嫌だと思い、その自分の意思をしっかりと示しておきたかったからです。

あれから21年が過ぎようとしています。子どものいない友だちに入会を勧めたりしますが、まったく反応がないのが、私にとってとても不思議です。そんななか、2月2日、尊厳死協会の「なら設立記念 市民公開講座」に行ってきました。満席

に近い状態で、みなさん、真剣に聞き入っていました。「尊厳死のことに世間の人々が注目しているなあ」と感じ入りながら帰途につきました。今、私は、「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」を額に入れて、誰にでもすぐ目につくように玄関に置いています。

【お詫びと訂正】前号（172号）の「LWのひろば」の投稿者のお名前で、伊藤敦子さんとあるのは伊藤淳子さんの間違えでした。お詫びして訂正いたします。

編集部より

- 投稿の募集 テーマは「私の入会動機」「一人暮らしの日々」など何でもけっこうです。600字以内で。掲載（写真含む）の方には図書カードを差し上げます。手紙またはファクス（03-3818-6562）、メール（info@songenshi-kyokai.com）で。
- 写真の募集 7月号に相応しい写真を。数年前の撮影も可。データをメール送信（アドレスは同上）、またはプリントを郵送してください。いずれも、協会本部会報編集部宛に、「ひろば投稿」と明記のこと。締め切りは5月15日です。

春ほほえむ
満開の桜の下を歩む
母娘（文京区の吉祥寺）
撮影／谷島輝雄



で夕食。20時、入浴。そして就寝という日課です。

その間、地元福祉団体の理事会に月に1回出席。週1回は地域での憩いの場として自宅を開放しての軽食（カラオケ、軽体操など）。年に2、

季節を感じさせる1枚の写真と
懐かしい唱歌でつづるページです

四季の歌

——その風景と背景

第
八
回

花



春のうららの隅田川、
のぼりくだりの船人が
權のしづくも花と散る、
ながめを何にたとふべき。

見ずやあけぼの露浴びて、
われにも言ふ桜木を、
見ずや夕ぐれ手をのべて、
われさしまねく青柳を。

錦おりなす長堤に
くるればのぼるおぼろ月。
げに一刻も千金の
ながめを何にたとふべき。

（歌曲集『四季』明33・11）より

作詞は武島羽衣（1872～1967年）、作曲は瀧廉太郎（1879～1903年）。武島は東京音楽学校などで教授（国語）を務め、御歌所寄人も歴任した新詩壇の開拓者。瀧は言うまでもなく、明治の西洋音楽黎明期における日本を代表する音楽家。「花」という曲名だが、「隅田川」と間違っただけで覚えている人も多いだろう。日本のどかな春ののびやかさを歌った代表的な楽曲の一つだ。歌曲集『四季』には、第1曲「花」、第2曲「納涼」、第3曲「月」、第4曲「雪」があるが、春の「花」以外、演奏されることはほとんどない。「何にたとふべき」は、何にたとえたらいいだろう、この素晴らしい春の眺め。「見ずや」は、この眺めを見ないでいられようか、の反語。「げに」は、まさに、いかにも、などの意。どこか心が浮き立つような春の躍動感、隅田川の活気、わくわく感が、テンポのいいメロディーとともに明るく立ち上ってくる。

関東甲信越支部 ☎ 03-5689-2100 ✉ kantou@songenshi-kyokai.com

公開講演会 in 長野

日程◎7月12日(金) 午後1時半～4時半
会場◎長野市ホクト文化ホール・小ホール
JR長野駅下車 徒歩12分
☎026-226-0008

テーマ「がん性腹膜炎とリビングウイル」

講師◎長尾和宏
日本尊厳死協会副理事長 医学博士

テーマ「住み慣れた地域で人生を
安らかに全うするには」

講師◎井 益雄
い内科クリニック院長 医学博士
定員◎300人
(無料・申込不要・先着順)

《地域サロン》のお知らせ

お茶を飲みながらお話する集いです

サロン in 新潟

日程◎4月13日(土) 午後2時半～4時半
会場◎コープシティ花園「ガレソン」ホールC
(新潟市中央区花園1-2-2)
JR新潟駅万代口から連絡通路で直結
徒歩3分 ☎025-248-7511
定員◎36人(無料・申込不要・先着順)

サロン in 立川

日程◎4月26日(金) 午後2時～4時
会場◎たましんRISURUホール(立川市民会館)
第2会議室(立川市錦町3-3-20)
JR南武線西国立から徒歩7分、
JR立川駅から徒歩13分 ☎042-526-1311
定員◎30人(無料・申込不要・先着順)

サロン in 東大島

日程◎5月8日(水) 午後2時～4時
(開場午後1時半)
会場◎東大島文化センター第3会議室
江東区大島8-33-9 ☎03-3681-6331
都営地下鉄新宿線東大島駅下車 徒歩5分
定員◎18人(無料・申込不要・先着順)

サロン in 本郷

日程◎4月12日(金)、27日(土)、
5月10日(金)、25日(土)、
6月14日(金)、22日(土)。
いずれも午後1時半～3時
会場◎支部事務所 文京区本郷2-27-8 太陽館ビル
5階 日本尊厳死協会内(地下鉄丸ノ内線か
大江戸線本郷三丁目下車すぐ) 電話予約が必要
です。支部までお願いします。

関東甲信越支部 活動報告

2人の講演に大きく頷く参加者

3月2日(土) 午後、さいたま市大宮のソニック
シティ市民ホールに鈴木裕也・尊厳死協会副理事
長と川口市内で開業している杉浦敏之・支部理事
を迎え、公開講演会を開催しました。「穏やかな最
期を迎えるために」のタイトルで講演した鈴木氏
は、テレビ番組や脚本家の橋田寿賀子さんの実例
を挙げて、尊厳死と安楽死の違いや、「死」を学ぶ
ことが減ってきた日本社会について分かりやすく
話されました。

続いて「住み慣れた地域で人生を安らかに全
うするには」のテーマで講演された、在宅医でもあ
る杉浦氏は、往診と在宅診療の違い、病院と在宅
での診療内容の差やそれぞれのメリット・デメ
リットについて話されました。人間の死は避けら
れない以上、本人や周囲がどんな治療を希望す
るかあるいはしないかを選択したとしても、何らか
の後悔や悲しみは残る、とし、要点として、①「死」
を遠ざけずに話すことがじつは健康的であること。
②できるだけ「かかりつけ医」を持つこと。③普段
から家族や親しい人とACP(人生会議)について
話し合っておくこと。これらがとても大切で必要
であると話されました。

2人のお話に、
会場に訪れた160
人ほどの参加者の
多くが大きく頷か
れていました。



北海道支部 ☎ 011-736-0290 ✉ hokkaido@songenshi-kyokai.com

公開講演会 in 札幌

日程◎5月18日(土) 午後1時半～
会場◎札幌エルプラザ(JR札幌駅北口近く)
札幌市北区北8条西3丁目

テーマ「人生会議を成功させるために」

講師◎江端英隆 北海道支部長
定員◎300人(無料)

帯広とかち定期講演会

日程◎5月18日(土) 午後1時半～
会場◎とかちプラザ会議室(帯広市西4条南13丁目1)
テーマ「終末期の在宅での医師としての対応」
講師◎酒井 俊 さかい総合内科院長
お問い合わせは支部事務局へ(無料・予約不要)

石狩南部地域懇話会前期研修会

日程◎5月26日(日) 午後1時半～3時半
会場◎千歳市社会福祉協議会(予定)

テーマ「終末期と尊厳死について」

講師◎宮本正尊 天融寺住職
定員◎30人(無料・予約不要)
お問い合わせは支部事務局へ

旭川上川地区懇話会

日程◎5月23日(木) 午後7時～8時半
会場◎旭川市民活動交流センター CoCoDe 2階
会議研修室1・2(旭川市宮前1条3-3-30)
テーマ「リビングウイルについて」
定員◎50人(無料・要予約) 5月17日までに要申込。
お問い合わせ◎懇話会事務局 ☎0166-34-0488

尊厳死協会の「人生会議」

日程◎第1回(がんと緩和医療①) 4月16日(火)、
第2回(がんと緩和医療②) 5月24日(金)、
第3回(救急医療と尊厳死①) 6月18日(火)、
いずれも午前10時～正午
会場◎札幌エルプラザの4階研修室
(JR札幌駅北口近く)
定員◎先着30人(第3回は20人。無料・予約不要)

関西支部 ☎ 06-4866-6365 ✉ kansai@songenshi-kyokai.com

サロン交流会

テーマ「最期の望みをかなえるリビング
ウイルノート」～カフェしませんか～

日程◎5月25日(土) 午後2時～4時
会場◎関西支部(担当は竹内理事)

黒田裕子記念 神戸フォーラム

日程◎7月27日(土) 午前10時～
会場◎JEC日本研修センター神戸元町
ジエム(ジェムズ確認)ビル2階

※今年も日本ホスピス・在宅ケア研究会のフォー
ラムに参加します。
詳しい情報は関西支部HPでお知らせいたします。

リビング・ウイルサロン

リビングウイルのこと、そのほか何でも。お気軽に
お茶を飲みながらおしゃべりしにお越しください。

日程◎毎月第2、4火曜日 午後1時半～4時
4月9日、23日。5月14日、28日。
6月11日、25日

会場◎関西支部

関西支部 活動報告

大盛況だったお二人の講演

2月2日の土曜日、奈良市中部公民館5階大
ホールで開催された尊厳死協会関西の「なら設立
記念 市民公開講座」には、300人(定員320人)を
超える方々が参加され、大盛況となりました。

今回の狙いは2つ。協会の「リビング・ウイル」
「尊厳死」を啓発・実現していくためには、地域に
応じた情報サービスの提供ができるような協会
でなければならないこと。今回、なら会長に就任
した宮城信行医師が「転ばぬ先のリビングウイル」
という内容で講演されました。

そしてもう一つは、終末期医療をみんなで何度
も話し合って決定するACPという手法の理解で
した。「ACPつまり人生会議って、インフォームド
コンセントや施設・在宅におけるカンファランス
と何が違うのか」と訪問看護師の現場の声もあり
ました。その「人生会議」を長尾和宏・尊厳死協会
副理事長が講演で問題点を指摘しました。何より
も本人意思重視が基本。大事なものは時間をかけて
話し合うプロセスであると、強調されました。

地域の
みなさんへ

リビング・ウイル「出前講座」はいかがですか

●ご依頼により講師を派遣します ●会場のご用意をお願いします ●お問い合わせは支部までどうぞ

リビングウイル懇話会 in 静岡

日程◎5月25日(土)午後1時半～
会場◎静岡音楽館AOI 7階ホール
(JR静岡駅北口すぐ) ☎054-251-2200

講演◎「人生の終末期を自分らしく
迎えるために」

—アドバンス・ケア・プランニングを
3者(患者・家族・医療介護関係者)で—

講師◎平川仁尚 名古屋大学大学院
医学系研究科准教授

定員◎300人(無料)



北陸地区講演会

日程◎6月2日(日)午後1時から
会場◎石川県文教会館(金沢市尾山町) 尾山神社
バス停下車徒歩2分 ☎076-262-7311

テーマ「地域におけるアドバンス・
ケア・プランニング」

講師◎西川満則

国立長寿医療研究センター
緩和ケア診療部医師

定員◎100人(無料)

意見交換◎支部理事(喜多正樹、川島和代)を中心に



地域サロンへどうぞ

日程◎4月23日(火)、6月25日(火)午後1時半～3時
会場◎名古屋市中村区の青木記念ホール
(地下鉄中村公園駅から徒歩5分)

終末期医療、在宅介護などを語り合いませんか。
希望者は支部までご連絡を。無料

東海北陸支部 活動報告

「まずACP」をテーマに語り合う

「今や国策」とまで言われるACPをテーマにした
第5回日本LW研究会東海北陸地方会は、昨年11
月25日、愛知県医師会館大講堂で開かれた。前年
の5割増しに近い127人が詰めかけ、ACPへの関
心の高さがうかがわれた。研究会には岩尾総一
郎・尊厳死協会理事長も参加。

講師の国立長寿医療研究センターの西川満則
医師が「ACPは本人の価値観を重視して進めて
いく。医師は伴奏者」と話したのに対し、在宅・看
取りクリニックの森亮太医師(名古屋市天白区)
は「ACPは医療の世界だけではない。地域の中で
進めることも重要」と述べた。

会場からは「ACPと言われても、英語の略式文
字で理解できる人は少ない。日本語訳の設定も重
要な要素だ」との指摘があった。厚生労働省はこ
の5日後の11月30日、ACPの愛称を「人生会議」と
決め、公表した。

東海北陸支部では「今回のテーマはまずACP
だ」で取り組んだ。参加者の内訳は会員30人、非
会員87人、医師10人だった。(支部長・小林 司)



協会会員 投稿ギャラリー

伊藤絹子さん 79歳(宇都宮市)



Bitter smile



Dancing

春の公開講演会

日程◎5月12日(日)午後1時半～3時半

会場◎仙台市福祉プラザ「ふれあいホール」
(地下鉄南北線五橋駅から徒歩3分)

挨拶◎「尊厳死協会をめぐる動向～ACP(人生
会議)・公益法人化～」(橋村 襄・支部長)

講演◎「穏やかな看取り
～在宅医療のコツ 伝えます」

講師◎石澤 誠 弘前市・石澤内科胃腸科院長
尊厳死協会東北支部理事

定員◎先着300人(無料)

お問い合わせは支部事務局へ

第32回「仙台駅横 リビング・ウイル 交流サロン」

日程◎4月19日(金)午後2時～3時半

会場◎「せんだいアエル」6階特別会議室
(JR仙台駅西口 徒歩3分)

テーマ「看取りが変わる、最期が変わる
～東北支部4半世紀の歩みから」

お誘い合って、どなたでもどうぞ。参加費無料

中国地方支部

☎ 082-244-2039 ✉ chugoku@songenshi-kyokai.com

リビングウイルノート・セミナー開催

協会から発売となった「リビングウイルノート」。
支部理事と一緒にノートを見つめながら、自分や
家族についての最終段階の医療をどう選択するか
など、ゆっくりと考えてみませんか?

日程◎4月19日(金)午前10時40分～12時10分
5月17日(金)午前10時40分～12時10分

会場◎県民文化センター 5階503号室
(広島市中区大手町1-5-3)

定員◎10人(事前参加申込みが必要。支部事務局
へ直接電話かメールで)

参加費◎1,000円(『リビングウイルノート』の書
籍代金。すでにお持ちの方は無料)

中国地方支部 活動報告

半数以上が「老衰への意識が変化」

公開講演会で毎回実施している聴講後のアン
ケート集計による結果です。1月27日(日)に開催
した、広島市立安佐市民病院副院長の土手慶五

東北支部 活動報告

「尊厳死」登録と「法定遺言書」

人生の最終段階における自分の意思表示を「公
正証書」でおこなう人が増えている——と、この
ところ、マスコミなどに取り上げられることが多
くなった。日本公証人連合会などの発言も相次い
でいる。本当にそうなのだろうか。日本尊厳死協
会の「リビング・ウイル」よりメリットがあり、公
正証書の方がいいのか。これは最近の現象なのか。

今年1月の「仙台駅横リビング・ウイル 交流サ
ロン」では、協会の「尊厳死登録」と「公正証書」
との違いを、真正面から取り上げ、話し合った。難し
い法律用語もあり、参加者は少ないだろうと予想
したが、大学の元教授、公正証書で「40万円を請
求された」という人なども参加し、関心は高かった。

結局、「公正証書」は相続や遺産分割などの点で
は有効さが際立つが、「尊厳死」を尊重し、生き方
を考え、家族ともども人生を語るのには、「尊厳死
登録」の有効性と簡便性が優位にあることが浮き
彫りにされた。人生の最終段階を考える意義も大
いにあることに加え、経費面だけでなく「尊厳死
登録」は総合的にみて「いい」と再認識された。

(支部長・橋村 襄)

医師の「あなたにとって老衰とはなんですか？」
の講演会。100人定員の会場は超満員でした。講
演内容についての詳細は支部ホームページに
アップしてあります。ここでは、アンケートに記
入いただいた感想や意見の中から代表的なコメ
ントを紹介します。

①80路の私にはこれからの余生の生き方が自
分自身で考えられるようになりそうです。②LW
受容協力医師の数が増えることを望みます。③
2020年のオリンピックの次の大阪万博に行くこ
とが目標です。④広範囲にLWについて考えるヒ
ントをいただきました。⑤知人等に紹介してまた
聴きたいので、また是非講演会を開催してほしい。
⑥高齢なのでお話が体内に充分入り込みまし
た。⑦実績に基づく素晴らしいお話を聞き安心し
ました。⑧大変によい話をお聞きし明日からの
日々を楽しく大切にしたいと思います。⑨母を
誘って参加しました。人生会議について理解して
くれたと思います。⑩生きる喜びが湧いてきまし
た。楽しい話の中に真実がありました。

コメント欄への記入率も58%で過去最高でし
た。(支部長・正木文治)

私の希望表明書

私は、協会発行の「リビング・ウィル（終末期医療における事前指示書）」で、延命措置を受けたくないという意思をすでに表明しています。それに加えて、人生の最終段階を迎えた時に備え、私の思いや具体的な医療に対する要望をこの文書にしました。自分らしい最期を生きるための「私の希望」です。

記入日 年 月 日 本人署名

希望する項目にチェックを入れました。

1. 最期を過ごしたい場所（一つだけ印をつけてください）

- ☐自宅 ☐病院 ☐介護施設 ☐分からない
☐その他（ ）

2. 私が大切にしたいこと（複数に印をつけても構いません）

- ☐できる限り自立した生活をする ☐大切な人との時間を十分に持つこと
☐弱った姿を他人に見せたくない ☐食事や排泄が自力でできること
☐静かな環境で過ごすこと ☐回復の可能性があるならばあらゆる措置を受けたい
☐その他（ ）

※以下「3」と「4」は、「ただ単に死期を引き延ばすためだけの延命措置はお断りします」という表現では伝えきれない希望や、「止めてほしい延命措置」の具体的な中身を明確にするためのものです。

3. 自分で食べることができなくなり、医師より回復不能と判断された時の栄養手段で希望すること（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐経鼻チューブ栄養 ☐中心静脈栄養 ☐胃ろう ☐点滴による水分補給
☐口から入るものを食べる分だけ食べさせてもらう

4. 医師が回復不能と判断した時、私がして欲しくないこと（複数に印をつけても、迷うときはつけなくてもよいです。）

- ☐心肺蘇生 ☐人工呼吸器 ☐気管切開 ☐人工透析 ☐酸素吸入
☐輸血 ☐昇圧剤や強心剤 ☐抗生物質 ☐抗がん剤 ☐点滴

5. その他の希望

【用語の説明】

●**心肺蘇生**：心臓マッサージ、気管挿管（口や鼻から気管に管を入れる）、電気的除細動、人工呼吸器の装着、昇圧剤の投与などの医療行為。

●**人工呼吸器**：自力で十分な呼吸ができない状態の時に、肺に機械ポンプで空気や酸素を送り込む機器。マスク装着のみで行う場合もあるが、重症の際はチューブを口や鼻から入れる気管挿管を行う。1～2週間以上続ける場合は、のどに穴を開ける気管切開（喉仏の下から直接気管に管を入れる）をしてチューブを入れる。

●**胃ろうによる栄養補給**：内視鏡を使い、局所麻酔で胃に管を通す手術を行う。その管を通して栄養を胃に直接注入すること。

四国支部

☎ 089-993-6356 ✉ shikoku@songenshi-kyokai.com

一般公開講演会

日程◎6月9日（日）午後1時半～3時

会場◎愛媛県美術館講堂（松山市堀之内）

講師◎近藤 誠 西条市教育委員会 人権教育課課長

テーマ「家族が認知症になったら どうしますか」

～認知症の在宅介護と今後の課題～

無料・事前予約不要。お誘い合わせのうえお越しください。

「リビングウィルノート講習」 ～LWを学び、ノートをつくりましょう～

日程◎4月5日、5月17日、6月7日

（いずれも金曜日の午後1時半～3時半）

会場◎支部事務所（松山市大手町）

趣味あれこれ

絵手紙教室を楽しみましょう。無料。どなたでも歓迎。

日程◎4月19日、5月17日、6月21日

（いずれも金曜日の午後1時半～3時半）

会場◎支部事務所（松山市大手町）

九州支部

☎ 092-724-6008 ✉ kyushu@songenshi-kyokai.com

第6回リビング・ウィル 研究会九州地方会

日程◎6月8日（土）午後3時～5時半

会場◎長崎ブリックホール国際会議場

長崎市茂里町2-38 JR浦上駅から徒歩5分 ☎095-842-2002

第1部「リビングウィルについて」

講師◎満岡 聡 尊厳死協会理事・さが会長

第2部「ピンピンコロリってできるの？」

～在宅看取りからアドバンス・ケア・プランニングを考える～

劇団「ザイタク」が過去3回行った演劇の録画を参加者とともに視聴し、みんなで語り合う。
司会進行◎桜井隆（さくらいクリニック）、白山宏人（医療法人拓海会 大阪北ホームケアクリニック）

定員◎426人（無料、予約不要）

四国支部 活動報告

事前指示書の必要性

高知講演会が2月3日、「人生の最終段階において本人の意思に基づく医療・ケアが行われるために、どのような準備が必要でしょうか」と題して行われた。講師の北村龍彦高知代表（四国副支部長）が、厚労省が、地域包括ケアシステムや「人生会議」の呼称ACPなど、本人の意思を尊重する終末期医療に本腰を入れ始めたことを説明。私たちはこれに呼応して、どのように生きどのように終わりたいかを自己決定し、事前指示書を準備しておく必要性を訴えた。

後半の懇談会では「私の希望表明書」を使い、人生の最終段階に備え自分の思いや具体的な医療に対する要望を書いてもらった。

同じく2月3日、松山市男女共同参画推進センター（コムズ）主催の約20講座の一つとして「一般公開講演会」を参画した。「苦しまず、家族を困らせないで逝くには？」と題して、野元正弘・四国支部長が厚労省の終末期医療の現状やガイドライン、人生会議（事前指示書-ACP）などを解説し、家族・近親者との話し合いの必要性を訴えた。

九州支部 活動報告

宮古島での出前講座実現

2月22日、宮古島の尊厳死協会会員からお声がかかり、宮古島での出前講座が実現しました。演題は「高齢者・認知症の方の意思決定支援～人生の最終段階における医療・ケア決定 本人の意思確認の仕方や支援について～」という長いタイトルでした。

講師の上間一医師が、これまで体験してきた緩和ケア医療や在宅での看取りの事例を通して、この医療は正しかったのか、終末期の判断は病気によって違うので終末期の時期決定は難しいことなどを会場の参加者に問いかけました。またACPについて解説し、最近発行した尊厳死協会の『リビングウィルノート』を人生会議の整理に活用しませんか、と紹介し、直接販売もしました。宮古島の在宅を支える専門職の方々に尊厳死協会を知っていただく良い機会になったと思います。

日本尊厳死協会の公益認定申請に対する不認定処分取消訴訟について

協会の勝訴後、国が控訴しました

協会は2015年、終末期の過剰な延命治療の拒否を意思表示する「リビング・ウイル」の普及・管理事業は「公益目的事業である」として公益認定を申請しましたが、翌2016年、国は、リビング・ウイルの登録管理事業などを公益目的事業と認めると、医師の医療判断などに大きな影響を与える可能性がある、として不認定処分としました。

これに対し、協会は「不認定処分の取消」を求める訴訟を起こし、2019年1月18日、東京地方裁判所は、「当協会を公益認定しない」という国の処分を取り消す判決を下しました。不認定処分を違法とする当協会の主張が全面的に認められたかたちです。（下の

表・図を参照）

裁判の中で国は、「当協会のリビング・ウイル登録管理事業を公益目的事業と認めると医師等の判断に影響を与え、医師が法律上不安定な立場に置かれる可能性がある」との主張を繰り返しましたが、裁判所は、法律やガイドラインに沿って当協会の事業目的や手段を詳細に検討したうえで、当協会の事業は公益目的事業として認められ、それを認めることで医師等に法的な不利益を与えることもない、と結論づけました。

この判決を不服として国は1月31日、控訴し、裁判は高等裁判所へと続きます。

日本尊厳死協会の公益申請に係る不認定処分取消等訴訟の結果について（図表は土肥法律事務所作成） （東京地方裁判所平成31年1月18日判決）

事案の概要



【不認定理由】

◆医師等に不利益を与える可能性がある

- ①原告の登録管理事業を公益目的事業と認めると、「延命治療の中止等の判断に係る様々な要素の一部についてのみ国が積極的評価を与えた」と医師が認識してしまう
- ②①により、終末期医療において医師を誤った判断に誘引する等の悪影響を与える
- ③現状の医師の置かれた状況からすると、リビング・ウイルに従った医師が法的責任を問われかねず、医師が法律上不安定な立場におかれる可能性がある

裁判所の判断 【東京地裁平成31年1月18日判決】

原告の申請事業は公益目的事業に該当する。よって、内閣総理大臣がした不認定処分を取り消す。

(1)原告の申請事業は公益目的事業といえるか。→いえる

公益に関する認定法別表各号に掲げる種類の事業

+ 不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するもの
公益認定等委員会発行のガイドライン中の「**公益目的事業のチェックポイント**」を参考に判断

①事業目的

登録管理事業の直接の受益者は会員に限られるが、普及啓発、調査研究・提言事業と相まって、受益の効果が広く社会全体に及ぶことを積極的に意図しており、不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与することが主たる目的となっている。

②事業の合目的性 ※事業の内容や手段が事業目的を実現するのに適切なものになっているか

受益の機会の公開

満15歳以上で意思表示能力のある者であれば誰でも会員となれ、そのことはHP等で公表されている。会費も不当に高額でない。その結果、11万人を超える多数の会員がいる。

事業の質を確保するための方策

宣言書の改訂には、医師等の専門家が関与し一定の質を保ったものになっている。これは、多数の受容協力医師の存在、現医師会会長の発言、国の報告書や論文に同宣言書が引用されていることから裏付けられる。

一定の者に与える不利益の有無、程度

申請事業が不特定かつ多数の者の利益を増進する反面、一定の者に不利益を与える場合には、その事業内容や手段は、事業目的を実現するのに適切なものとはいえない。

(2)医師等に与える影響の有無、程度について→医師等に対して被告主張のような影響を与えることはない

不認定理由①に対応

公益認定は、医師に、「内閣総理大臣が同事業を不特定かつ多数の者の利益の増進に寄与するものであると認定した」という認識を与えるもの。それを超えて、国が延命治療の中止等について特定の立場を支持している等ということの意味するものではない。

不認定理由②に対応

原告の事業も、目的も、延命方向の希望・方針を否定するものではない。終末期における治療方針の決定においては、患者の意思が尊重されるべきであるとの考え方は、様々なガイドライン等において一致している。患者が意思表示できないときでも、リビング・ウイルが存在し、その意思が確認できたときは、医師等はその意思を尊重すべきであるとの考え方が一般的であり、このことは公益認定の有無に左右されない。

不認定理由③に対応

延命措置の中止等の要件について確立した司法判断の枠組みがなく、医師等が常にその行為が法的責任に問われる可能性の下で慎重な判断を求められる現状は、本件公益認定の有無にかかわらず存在する。リビング・ウイルが存在するからといって、ガイドライン等に定められた意思確認のプロセスを省略してよいものとされているわけではない。自治体発行や公正証書を用いた場合と、医師への影響は異ならない。

ACPの愛称が「人生会議」に！ リビング・ウイルが不可欠です

昨年の11月、ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の愛称が「人生会議」に決まりました。

国民一人ひとりの生活の中に必ずしも浸透していなかった「ACP」を馴染みやすい愛称にしたいと

厚生省が公募し、その中から選ばれたものです。

この「人生会議」と尊厳死協会のリビング・ウイルはどう違い、どのように活用すればいいのでしょうか。

Q まずACPをわかりやすく説明してください。

A ACPとは、自分や大切な人（家族など）の「人生」や「もしもの時」を考え、今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合うことです。そして、その人が今をより大切に最期まで自分らしく生きることを支援するのを目的としています。内容は、その人がどこで誰と過ごし、どのようなケアを受けたいかなどですが、繰り返し話し合うこと、なぜそう考えるかの価値観を重視します。もともと医療者の間で使われていた言葉でしたが、ここ数年で一般にも広まってきました。

Q そのACPをより親しみやすい愛称に、ということで「人生会議」になったわけですね。

A 「意味が分かりやすく日常生活に浸透していくことが期待できる」「家族や信頼できる人たちと輪を囲んで話し合うイメージが湧く」というような理由で、浜松の看護師さんが提案した「人生会議」に決まりました。

Q 「人生会議の日」もあるとか。

A 11月30日を「いい（11）看取り（30）」にかけ、その日を人生の最終段階における医療・ケアを考える日としました。もちろん「人生会議の日」以外にも、家族や親せきが集まる正月やお盆に、一緒に人生の最終段階における医療・ケアについて話し合ってみることが大切です。ぜひお勧めします。

Q 尊厳死協会のリビング・ウイルと「人生会議」はどう違うんですか。

A リビング・ウイルは、過剰な延命治療は受けない、しかし、苦痛を取る緩和医療はしっかり行なってくださいという自発的な意思表示です。「人生会議」は、もう少し幅広く、本人がどのようなケ

アを受けたいのか、受けないかの確認のための会議といってもいいでしょう。

ちなみに、リビング・ウイルは一昨年、過剰な延命治療の拒否と十分な緩和ケアの希望という本文に、証人と医療代諾者の指名という項目を加え、さらに昨年、「私の希望表明書」を会報に毎号掲載し（切り取って保管できるようにしてある）、個人の希望に対応できるようにしました。どうしても心は揺れますから、「希望表明書」は繰り返し書き直すことができます。また「リビングウイルノート」を発行し、「終末期の最期の過ごし方の希望」などを書き込む欄を設けて、きめ細かな対応をおこなっています。

Q リビング・ウイルも時代の変化に合わせて深化してきているわけですね。

A そう言えますね。リビング・ウイルか人生会議かの選択ではなく、「人生会議」に臨むにはまず明確な本人の意思、すなわち「リビングウイル」が不可欠です。本人の意思が曖昧なままだと本人の望まない方向に誘導されたり、何人もの人の前で本音を言えなかったりすることもあるかもしれません。明確な本人の意思とはいっても、それすら変わるものでしょうから常に意思の表明が必要ですね。



尊厳死協会が今年1月に発行した「リビングウイルノート」（裏表紙参照）には「最期のときまでの過ごし方」や「食生活」など書き込んでおくページがたくさんある。お手元に置いておくことをおすすめしたい。

ご寄付ありがとうございました（敬称略）

2018年11月20日から2019年2月末日にご寄付いただいた方々です。

佐々木壽美	10,000	五十公野美園子	1,184	日比野富子	4,500	匿名・北海道	1,000
大森幸一	10,000	笠井美奈子	20,000	藤堂祥代	1,990	匿名・宮城県	2,000
櫻井初子	3,000	篠原戊辰	8,000	藤村洋子	20,000	匿名・千葉県	5,000
鈴木須磨子	2,590	萩原 甫・久子	2,000	小澤和夫	20,000	匿名・千葉県	10,000
今村光栄	4,597	藤原よね子	10,000	間宮敏雄	10,000	匿名・神奈川県	4,000
荻原孝行	3,000	丸山ミヨ子	1,900	池田朝子	5,000	匿名・静岡県	20,000
久保良子	10,000	松村壽子	2,000	堀内史子	5,840	匿名・広島県	1,000
小谷 朗・智子	2,000	三宅菊江	8,590	橘 亮道	10,000	匿名・香川県	5,000
柴山マスエ	1,000	吉田康子	2,000	吉藤ルリ	3,070	【東北支部扱い】	
伊藤宣之	4,000	伊藤孝子	1,000	清田恵子	1,055	京野アイコ	30,000
大久保幸一	1,000	円城茂子	20,000	在前正昭	4,000	【東海北陸支部扱い】	
岡田正雄・あゆ	2,000	岸本幸子	8,900	中村清子	20,000	匿名	1,000
鈴木春生	2,000	松本 亘	1,129	塚本明男	7,800	鈴木眞由美	893
鈴木紀久栄	3,000	富井裕子	1,686	里 ヤスエ	5,000	【関西支部扱い】	
飯山久美子	1,024	越 節子	2,000	四宮喜久	10,000	匿名	1,000
岩松きみ子	2,954	玉木光子	4,000	石窪薄由	5,000		

ご寄付は、現金書留、あるいは郵便振替口座「東京00130-6-16468」をご利用ください。切手でのご寄付もお受けしています。いずれの場合も、「お名前」「会員番号」と送金の目的が「寄付」であることをお書き添え下さい。

出版案内 日本尊厳死協会がお勧めする必読の書。（書店では扱っておりません）



人生の最期で迷わないために 尊厳死の「不治かつ末期」

専門医が病態ごとに「不治かつ末期」を分かりやすく
説明しています。あなたの「？」に答えがあります。

- **がんの末期** 人工的な栄養・水分の補給は、かえって苦しみを増す？
- **持続的植物状態** 延命措置の事前意思表示がない場合、医師や家族はどうしたら？
- **腎不全** 「余命」宣告後に、医師から透析療法を勧められたら？
- **救急医療** 日本救急医学会が示す「終末期」の判断とは？
- **認知症** 「不治かつ末期」をどう考える、延命措置は？
- **老衰** 天寿を全うする「老衰死」。平穏な死を妨げるものは何か？

自分の終末期にどのような医療を望むのか、望まないのか。
医師たちは「具体的な意思表示が大切」と訴えています。

新・私が決める尊厳死 「不治かつ末期」の具体的提案

編著・発行 日本尊厳死協会 発売 中日新聞社

協会事務局でお求めできます。1100円（税・送料込）。お名前、住所、会員の方は会員番号を明記。
代金を現金書留または定額小為替か切手相当額を同封して協会事務局（〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-8 太陽館ビル501）宛に。

LWの受容協力医師 第95報

2018年12月～2019年2月の間に
新しく登録なされた医師の方々です。

内：内科 循：循環器科 呼：呼吸器科 消：消化器科 外：外科 整：整形外科 小：小児科 放：放射線科 精：精神科 麻：麻酔科
リハ：リハビリテーション科 リウ：リウマチ科 皮：皮膚科 肛：肛門科 泌：泌尿器科 心内：心療内科 脳外：脳神経外科 アレ：アレルギー科
【会員医師は会とする】

医療施設名	診療科	医師名（敬称略）	施設所在地	電話
阿部医院	内・小・皮・アレ	清水恵一郎	東京都目黒区平町2-5-7	03-3717-2288
農大通り診療所	内	吉田廣海	東京都世田谷区経堂1-5-6 パルファム経堂1階	03-3439-6051
ひまわりクリニック	内	佐藤俊一	東京都世田谷区砧6-4-9	03-3749-7788
深沢1丁目クリニック	内	安西光洋	東京都世田谷区深沢1-39-10	03-5758-8310
緑の森 さくらクリニック	内・神内 心臓血管外・内・緩和・ 老内・麻	佐藤志津子	東京都中野区本町2-2-2 YSビル地下1階	03-5358-8321
三心会 中野なおクリニック	心臓血管外・内・緩和・ 老内・麻	三枝直樹	東京都中野区弥生町2-4-9-2F	03-6379-6021
三心会 中野なおクリニック	心臓血管外・内・緩和・ 老内・麻	久保明宏	東京都中野区弥生町2-4-9-2F	03-6379-6021
多田町診療所	内・呼・アレ・小	右近智雄	東京都中野区南台3-33-5	03-3381-3191
ホームクリニックなかの	内	森 宏太郎	東京都中野区野方4-44-11	03-3387-2734
明笙会たけうち内科	内・小・胃腸	竹内明彦	東京都杉並区成田東3-12-13	03-3313-8428
森谷医院	内	森谷泰和	東京都杉並区松庵1-8-6	03-3334-7285
ききょう会 巣鴨ホームクリニック	在宅	清水健一郎	東京都豊島区巣鴨1-12-1-6F	03-6902-0177
紬愛会 新板橋クリニック	内・在宅・緩和ケア	清水公一	東京都板橋区板橋4-4-4 セレブ新板橋ビル1F	03-5248-5715
はちすクリニック	内	蜂巢 将	東京都板橋区上板橋1-26-13	03-5922-5055
鈴木クリニック	内・小・呼・消内・放	鈴木次夫	東京都練馬区練馬1-27-1	03-3991-1581
康和会 田中医院	内	田中康之	東京都練馬区谷原6-9-8	03-3996-5700
結城クリニック	内・整	鶴町好司	東京都練馬区石神井町2-32-8	03-3995-8701
ねりま西クリニック	内・整	大城堅一	東京都練馬区大泉町3-2-9	03-5933-3077
てらもとクリニック	内・外・消	寺本研一	東京都練馬区南大泉1-15-39 スプリング101	03-5905-6006
進藤医院	内	進藤幸雄	東京都青梅市千ヶ瀬町6-797-1	0428-78-3111
武蔵野総合クリニック	在宅	下村 洋	東京都清瀬市元町1-8-30	042-496-7015
多摩クリニック	内	竹内あづさ	東京都多摩市諏訪5-10-1	042-375-7753
新百合ヶ丘あゆみクリニック	内	門松拓哉	東京都稲城市平尾1-24-7 プレミアリッジ R-3	042-350-5575
健剛会おげきクリニック	内・整	小関雅義	東京都武蔵村山市大南2-39-1	042-563-7001
山の鎖目クリニック	脳外・神内・内・リハ	鎖目研吾	静岡県下田市姉崎432-1	0558-23-8820
まちだ胃腸病院	内	町田浩久	大阪府大阪市西成区山王1-1-15	06-6649-1251
宮城医院	内	宮城信行	奈良県天理市丹波市町302	0743-63-1114
よしだ内科医院	内	吉田真人	鳥取県鳥取市湖山町北6丁目448-1	0857-31-1118
谷口病院	泌	佐伯英明	鳥取県倉吉市上井町1-13	0858-26-1211
福泉医院	内・小	福泉容存	福岡県福岡市中央区白金1丁目18-8	092-531-0908
佐藤外科総合クリニック	外・精・皮	佐藤莞治	福岡県福岡市南区警弥郷1丁目17-15	092-581-3893
しば田クリニック	外・内	柴田順二	福岡県福津市中央3丁目9-1 ODAビル2F	0940-43-5222
吉田内科クリニック	内	吉田道弘	福岡県宗像市村山田1071	0940-36-4118
大岩外科医院	外・胃腸・麻	大岩俊夫	福岡県古賀市花見東2-1-5	092-942-6231

【お詫びと訂正】

前号（172号）の受容協力医師名簿（22ページ）の一戸由美子医師の医療施設名と施設所在地が間違っていました。
正しくは「河北サテライトクリニック」「東京都杉並区阿佐谷北1-3-12」でした。お詫びして訂正いたします。

【受容協力医師についてのご案内】

全国に1900人ほど登録しているLW受容協力医師のお名前は、協会各支部のホームページ（HP）で閲覧することができます。各支部HPへのアクセスは本部のHPからのリンクをご利用ください。**会員専用認証パスワードは「jsdd（半角小文字）」です。**紙に印刷した受容協力医師リストをご希望の方は、各支部にご連絡ください。ファックスか郵送でお送りいたします。

医療相談
（通話無料）

0120-979-672

月・水・金曜日
午後1時～5時（変更あり）

病気や気になる症状、特に終末期にかかわる不安や悩みについて、相談員（看護師）が
丁寧にお聴きし、皆さま自身が主体的に考えて解決できるように支援しています。

協会宛メール（✉info@songenshi-kyokai.com）でも受けつけております。

●本部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-3818-6563
FAX 03-3818-6562
メール
info@sogenshi-kyokai.com
ホームページ
http://www.sogenshi-kyokai.com/
郵便振替口座
東京00130-6-16468

●北海道支部

〒060-0807
札幌市北区北7条西2丁目6
37山京ビル801
TEL 011-736-0290
FAX 011-299-3186

●東北支部

〒980-0811
仙台市青葉区一番町1-12-39
旭開発第2ビル703号室
TEL 022-217-0081
FAX 022-217-0082

●関東甲信越支部

〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-8
太陽館ビル501
TEL 03-5689-2100
FAX 03-5689-2141

●東海北陸支部

〒453-0832
名古屋市中村区乾出町2-7
正和ビル2階
なかむら公園前法律事務所内
TEL 052-481-6501
FAX 052-486-7389

●関西支部

〒532-0003
大阪市淀川区宮原4-1-46
新大阪北ビル702号
TEL 06-4866-6365
FAX 06-4866-6375

●中国地方支部

〒730-0024
広島市中区西平塚町2-10
TEL 082-244-2039
FAX 082-244-2048

●四国支部

〒790-0067
松山市大手町1-8-16
二宮ビル3F B
TEL 089-993-6356
FAX 089-993-6357

●九州支部

〒810-0001
福岡市中央区天神1-16-1
毎日福岡会館5階
TEL&FAX 092-724-6008

※北陸支部は東海支部に統廃合されました

各支部HPへのアクセスは
本部HPからのリンクをご利用ください。

リビング・ウイル Living Will

(終末期医療における事前指示書)
(2017年7月改訂)

この指示書は、私の精神が健全な状態にある時に
私自身の考えで書いたものであります。

したがって、私の精神が健全な状態にある時に私
自身が破棄するか、または撤回する旨の文書を作成
しない限り有効であります。

□ 私の傷病が、現代の医学では不治の状態であ
り、既に死が迫っていると診断された場合に
は、ただ単に死期を引き延ばすためだけの延
命措置はお断りいたします。

□ ただしこの場合、私の苦痛を和らげるために
は、麻薬などの適切な使用により十分な緩和
医療を行ってください。

□ 私が回復不能な遷延性意識障害(持続的植物
状態)に陥った時は生命維持措置を取りやめ
てください。

以上、私の要望を忠実に果たして下さった方々
に深く感謝申し上げますとともに、その方々が私の要
望に従って下さった行為一切の責任は私自身にあ
ることを付記いたします。

リビング・ ウイルの勧め

日本尊厳死協会は、命の終わ
りが近づいたら延命措置を望ま
ないで、自然の摂理にゆだねて
寿命を迎えるご自分の意思を表
した「リビング・ウイル」を発
行、その普及に努めています。

現在11万人の方々が「リビン
グ・ウイル」を持ち、安心した
日々を送っています。自然のま
ま寿命を迎えることは、最期
の日々をよりよく生きること
であり、今を健やかに生きること
につながります。

お友だちやお知り合いに協会
や「リビング・ウイル」のことを
お伝えいただければと願ってい
ます。

事務局から

会費の自動払込のご案内 希望者はこちらご連絡ください

協会年会費払い込みには、自動払込制度(金融機関口座から
自動引き落とし)制度があります。利用には諸手続きがあり
ますので、ご希望の方は本部事務局まで連絡をお願いします。
次の要領で実施しております。

- 対 象 ▶ ご希望の会員
払 込 日 ▶ 会費払込該当月の28日(28日が土日
祝日の場合は翌営業日に引き落とし)
払 込 額 ▶ 会費相当額
手 数 料 ▶ 1回の払込に162円(150円+税)の
ご負担があります
取扱 金融機関 ▶ 国内ほとんどの金融機関(信金、信組、
ゆうちょ銀行、農協含む)
領 収 書 ▶ 預金通帳の金額摘要欄に協会名を印
字。領収書は発行しない

●なお、これまで同様、コンビニや郵便局での振り込みも可
能です。会報が緑色のビニール封筒で届きましたら年会費の
納入時期です。封筒の表に「年会費払込票在中」と印刷して
あります。銀行振り込みの場合は会員番号(00を省く)も
記入して下さい。なお協会ではコンビニでの振り込みをお勧
めしております



今号の1枚
『たんぽぽ、笑う』

タビユーにご登場いただいた樋
口恵子さんは、夫の最期を看
ていて「心は揺れ、考えは変わる
ものだ」と思い至り、元気な時に
言い放っていた最期への「強気
の言葉」を敢えて聞いた。さな
いことにしました、と語ります。
鳥取に取材にうかがった松浦
喜房受容協力医師や足立誠司医
師らも「人の思いは常に変化し
揺れ続けるもの」との認識を前
提に、最期の意思表明が3回変
更できる「終活支援ノート」を
作り、柔軟に軽やかに真の「最
期の意思」を探っていました。
(郡司)

Living Will 目次

— 会報2019年4月 No.173 —

- 02 インタビュー
評論家 樋口恵子さん
- 07 2018年
「ご遺族アンケート」
結果から
- 10 LW受容協力医師制度の展望
ルポ・鳥取の松浦喜房医師の活動
- 12 ●LWのひろば
- 14 ●連載「四季の歌」花
- 16 ●支部活動・報告
2019春～夏
- 21 「私の希望表明書」の書面
- 22 「人生会議」って何? Q&A
- 23 公益認定裁判についての経緯
- 24 LW受容協力医師のリスト
- 25 寄付
- 26 事務局から／編集後記／目次
- 27 終末期医療における事前指示書／
本部・支部一覧
- 裏表紙 出版案内

協会会員:10万9523人
(2019年3月4日現在)

次号は、
2019年7月1日発行

※本誌記事の著作権は日本尊厳死協会にあります。
引用、転載に関しましては当協会にご相談ください。

編集後記

●元気で健康な時に考えたり思
ったりしたことは、病んで伏せ
ったりすれば変わるものです。
それは仕方のないこと。肉体と
精神は連動するもので、若い肉
体の時の「青春の思想」と老い
た肉体から出る「玄冬の思い」
とは違ってくる。考えが丸く
なった」とか言いますが、そう
ではなく肉体が精神を規定してい
るのでしよう、きっと。巻頭イン

日本尊厳死協会の出版案内

好評
発売中!

最期の望みをかなえる リビングウイルノート

私の望む「痛くない死に方」がここにあります。



主な内容

- 尊厳死協会の会報「Living Will」のインタビューに登場された、小泉純一郎・元首相や脚本家の倉本聡さん、俳優の近藤正臣さん、秋野暢子さん、仁科亜季子さん、作家の北方謙三さんの名言を再録。
- 延命措置やACP(人生会議)など医療情報の解説や尊厳死協会の役割などのほか、「私の病気の記録」や「もしもの時の確認メモ」(健康保険証や基礎年金の番号など)、「終末期の最期の過ごし方の希望」「食べることができなくなった時の希望」……など、書き込むページや欄もたくさん詰まった **エンディングノートの決定版**。
- 「旅立ったあとで～大切な人へのメッセージ」や「旅立つ前に会っておきたい人」、「葬儀に呼んでほしい人」を書き込むリストの欄も充実

発行: ブックマン社
定価: 1100円(税別) A4判104ページ

この「リビングウイルノート」には、
あなたの「リビング・ウイル」を入れるスペースがあります。
是非お手もとにセットで!!
もしもの時にそなえ、こころの「生前整理」を